

仁王門（重要文化財）

徳川三代将軍徳川家光（1604～1651）の墓所である大猷院廟の霊場の境界には、小さな石橋が架けられている。霊廟は彼の仕様に従って建てられ、1653 年に完成した。

橋を渡った先にあるのが仁王門で、霊廟を守る 3 つの門のうちの最初の門である。この門には、歴史上の仏陀の守護者である仁王が祀られている。二体のうちの一体は口を開けて、アルファベットの最初の音節、「ア」を形成しているが、もう一人は口を閉じて、最後の音節、「ウン」を形成している。これは万物の始まりと終わりを意味している。

御水舎（重要文化財）

この東屋で身を清める参拝者は、天井から水に映る龍を見ることができるかもしれない。この龍は、狩野派の巨匠である狩野安信（1614～1685）によって描かれた。経年劣化で大きく劣化しているが、迫力ある龍の体のラインが見て取れる。また、緻密な金工細工や色鮮やかな彫刻、雷文模様なども見どころの一つである。